

### ■第2回新大橋景観検討委員会

平成29年2月16日(木)に「第2回新大橋景観検討委員会」を開催しました。今回は、新大橋整備基本方針(素案)、パブリックコメント(意見募集)の実施について議論いただき、より適切な言葉への置き換えなど内容の一部修正が必要ですが、基本的には事務局が提案した新大橋整備基本方針(素案)が了承されました。

次回、第3回委員会では、意見募集の結果を踏まえた「新大橋整備基本方針(案)」と、この方針(案)に沿った橋梁形式について提案し、議論していただく予定です。



### ■「新大橋整備基本方針(原案)」に関するご意見を募集します！

今回の委員会でいただいた意見を踏まえて作成する「新大橋整備基本方針(原案)」に関して、平成29年3月21日(火)から意見募集を行います。ぜひご意見をお寄せください。詳しくは、島根県松江県土整備事務所のホームページをご覧ください(アドレスは巻末に記載)。松江市報4月号などでもご案内する予定です。

以降は、事務局が提案した「新大橋整備基本方針(素案)」です。

今後、委員会でいただいた意見を踏まえて修正します。

### テーマ『水都・松江の風情を彩り、新しいふるさとの原風景をつくる橋』

大橋川は、<sup>だけさん わくらやま</sup>高山や和久羅山の山並みと霊峰・大山を背景に、柳そよぎ情緒あふれる街並みと一体となった水都・松江を代表する水辺です。この川に架かる松江大橋と新大橋は、伝統と未来という、いわば親子のような関係として、永く市民の暮らしを支え、大橋川の風景を形作ってきました。

このたび、架橋から80年以上が経つ新大橋は、大きな地震への対応と歩きやすい歩道の実現のため、大橋川の改修に合わせて、新しい橋へと架け替えることになりました。

新しい新大橋の設計にあたっては、水都・松江の風情を彩る現代的で<sup>かえい たたず</sup>佳麗な姿と、渡りやすく佇みたくなる歩行空間、まちと水辺の回遊性を高める橋詰空間を備えたデザインとします。

これにより、通学時に眺めた<sup>あさもや</sup>朝靄に煙る姿や、家族と河岸から眺めた青空に映える姿というように、大橋川周辺が市民ひとりひとりの原風景となり、ふるさと・松江への愛着と、まち全体の魅力をより高めるような橋を目指します。



#### コンセプト

上記テーマ達成に向けて、計画上大切にすべき3つの柱

- まちと水辺が一体となった大橋川の伸びやかな風景を引き立てる橋
- 渡りやすく、佇みたくなる居心地の良い歩行空間
- 市民の居場所となる水辺広場や川沿いのまちへの回遊性を生みだす橋詰空間

## 設計方針

コンセプトの実現に向けて、設計上具体的な留意事項

※事務局が提案した「新大橋整備基本方針（素案）」の内容です。  
今後、委員会でいただいた意見を踏まえて修正します。

### ① 全体方針

- ・新大橋と松江大橋との関係性を際立たせるよう、城下町の雰囲気を受け継ぐ松江大橋に対し、新大橋は新しいまちの賑わいにつながる、モダンなデザインの橋とします。
- ・長い年月を経ても見飽きない橋とします。
- ・松江大橋や大橋川の両岸など重要な視点場に囲まれているため、眺める場所（距離・角度）や時間帯によって、異なる表情を楽しめるデザインとします。
- ・遠景では歴史的なまちなみや水辺と調和するオーソドックスかつシンプルな形態とし、近景ではまちのこれからを期待させる洗練された深みあるデザインとします。

### ② 橋梁本体のデザイン

- ・水辺やまちの風景が主役になるように、上部に構造がなく、風景のスケールに合う橋梁形式（桁橋）とします。
- ・大橋川に対し左右対称となり、水平方向への伸びやかさと水面との近さを両立する桁形状と、風景のスケールにあう支間割による側面シルエットとします。
- ・歩行者や自転車利用者が渡りやすいように、縦断線形を低く抑えられる橋梁形式とします。

### ③ 橋上空間のデザイン

- ・歩きやすく、どこでも佇みたくなるような居心地の良い空間デザインとします。
- ・手触りの良い素材や親しみのある材料を用い、橋梁形状と調和する高欄・親柱のデザインとします。
- ・暖かみがあり、自然素材の風合いを活かした材料による舗装デザインとします。
- ・まちと水辺とつながる灯りのデザインとします。

### ④ 橋詰のデザイン

- ・背後の街路やまちと一体となった『歩行者優先の空間デザイン』とします。
- ・新大橋と橋詰そして川沿いの街並みがスムーズにつながる橋詰空間とします。
- ・橋詰には座って橋を眺められるような溜まり空間をつくります。

### ⑤ 市民参加のデザイン

- ・計画段階から市民に参加してもらい、愛着ある橋とします。
- ・見学会やイベントなど、市民参加型の取り組みを行います。

### ■ 委員からの意見（詳細は議事要旨参照）

- 松江大橋と新大橋の関係性は「親子」でなく、「ペア」や「両輪」といった、ともに担ってきたような言葉が適当。
- 松江大橋と新大橋は一体で考え、松江に再度訪れていただく、思い出していただくための原風景としてこのエリアをつくるのが大事。
- 桁橋でいいと思うが、松江の賑わい活性化につながるという視点から、教科書にあるようなどこにでもあるような橋ではなく、「行ってみたくなる」、「渡ってみたくなる」ような橋を目指したい。
- 長い目で見ると、奇抜な形よりも力の流れに対して無駄のない形のほうが洗練された美しさが出ると考えている。
- 形の美しさと橋上での過ごしやすさを両立できるような橋を目指したい。
- 「今を変えてほしくない」と考えている市民もおられると思うので、今と同じ橋梁形式である桁橋を進めてほしい。
- 照明をどうするかも大事。夜ここが素敵な場所になるなど考えてほしい。
- 大橋川沿いの水辺からどう橋にアプローチできるのか、まち側からどう橋に行くのか、橋の周りでどういうふうに休める場所を提供するのか、橋詰のデザインも非常に重要。
- 座って橋や川を眺めるにあたっては、どこが心地よさそうなのか、溜まれる場所を探していただきたい。橋と道路がぶつかる場所に限定せず考えたほうがよい。
- 橋詰広場にベンチがあればのんびり休めるというものでもない。のんびり休む時はお茶を飲むとか、そういうものがセットになっているべき。広島の前安川のカフェや松江の堀川沿いなど、川との距離を近づけるような試みがあるので、背後地も含めてその可能性を探してほしい。

お問い合わせ先：新大橋景観検討委員会事務局 島根県都市計画課計画グループ

Tel:0852-22-5699/Fax:0852-22-6004

※新大橋架け替え等事業に関する HP を開設しています。

[http://www.pref.shimane.lg.jp/infra/road/kikan/matsue\\_kendo/sinoohasi/](http://www.pref.shimane.lg.jp/infra/road/kikan/matsue_kendo/sinoohasi/)